

川特だより

<学校教育目標>

『ひとりだちする生徒

～社会的に自立できる心豊かな人間を育成する～』

<めざす学校像>

『生徒一人一人の自立を育てる 笑顔あふれる学校』

改元に際し、決意を新たにしましょう。

過ぎてみれば、あっという間の10連休でしたが、皆さんはいかがお過ごしだったでしょうか。

ついに平成が幕を閉じ、新時代「令和」の幕開けです。歴史的にも、こんなに祝福されて終わる時代はあったでしょうか。そして、こんなにも期待感を持って迎えられる時代もあったのでしょうか。平和の内に終わった平成に心より感謝するとともに、美しく平和な時代「令和」の幕開けに際し、決意を新たにすることをお勧めします。人は、一年の内に二回、「今年こそ」と「〇〇歳になったから」のように、元旦と誕生日に決意を新たにするものです。今年は、改元を機にもう一つ誓いを立ててみてはいかがでしょうか。改元という歴史的出来事に立ち会うことができた特権として、例年に加え「〇〇な時代にする」や「〇〇になるように頑張る(生きる)」を誓うことができるのですから、新たに大きな目標を設定しないのは、勿体ない気がします。目標達成は、有言実行が王道ですが、何かに書き記すのもまたいいと思います。

新時代に通用する「生きる力」に向けて、
経験・体験活動重視、本物に触れる学習を重視します。

昨今の科学技術の進展と技術革新によるAI化や便利家電の普及の恩恵で、私たちの暮らしや生活スタイルが目まぐるしく変化してきました。爆発的な情報化の下、スマートフォンの普及は、経済の在り方も変え、世界のグローバル化が一気に加速しました。また、児童・生徒の携帯端末の所持率は高まる一方で、SNSによるトラブルは教育現場だけの課題でなく、社会現象化しています。この先の予測不可能な時代にたくましく適応し、互いに協力しながらよりよく課題を解決することができる生きる力の育成に必要な要素は、新学習指導要領に示されました。社会に開かれた教育課程や、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)カリキュラムマネジメントなどがそれに当たります。

本校は、生徒にとって最後の学校になることから、よりこれらを特化し、特色ある教育課程を実践しなければなりません。本校の教育実践のキーワードは、まさに「共生社会の構築」と「自己肯定感(自己有用感)」そして「自己選択自己決定力」であると考えます。これからの時代は、社会と関わることの必要性を理解し、自分が集団内で互いに絆で結ばれ、かけがえない存在であるということを実感することで、自分が所属する集団の中で役に立ちたいという気持ちを育むことが今まで以上に必要になってきます。そして、周囲に助けを求めながらも、最後は自己責任・自己決定する力を身に付けられなければなりません。先行き不透明な時代だからこそ、こうした力はことさら必要あり、この力の育成の最後の仕上げをするのが、本校の責務であると考えます。

具体的な方策としては、少人数制と個に応じた学びを生かすことができる強みを生かした経験・体験活動の重視、本物に触れる学びを重視した実践型の教育課程の推進が上げられます。近年、教育現場ではデジタル化やAIの導入、ICTの有効活用により授業デザインが変化してきており、バーチャルリアリティーな学びが急速に普及しています。バーチャルリアリティーな学びは、確かに効率がよく理解しやすいのが特徴ですが、それだけに頼ると、知的好奇心を芽生えさせ、やる気や自信、豊かな心や人間性を十分に育むことはできません。五感を通じた経験や体験活動によってこそ、脳が直接的に刺激され、その印象が脳内に長く記憶され、その後の判断や決断の基準がつけられていきます。特に、幼少期から青年期に至るまでの「ハッ」や

「ドキッ」とする経験の積み重ねや「どうして」や「なぜ」、時には「どうしよう…」という困りを実感することや思い通りにことが進まない辛さを適度に味わうことが大変貴重な経験となります。常に少しの不安と不快さを覚えることで、より身体感覚が鍛えられ、自分らしさの創造や相手の気持ちを考えたり、物事に慎重になったりすることにつながります。感性を刺激したりする豊かな経験や本物に触れる体験活動、困難を乗り越えた実感や達成感、自信や感動を生み、思い出として深く脳内に刻まれます。こうした積み重ね自体が、その人の生き方を決める要素にもなるのです。

先日、ある教育雑誌の「高層マンションに居住する児童は何か少し違う」という書き出しの記事に衝撃を覚えました。窓が開かないことで、一年中エアコンにより温度と湿度調整された快適な居住環境は、脳を十分に刺激できなくなっているという内容でした。生まれた頃から暑い寒いを敏感に感じる機会がなく、窓越しに鳥のさえずりを聞くことも虫が入ってくることも自然の風を感じることもない。涼しくなってきたから散歩に行こうや寒いから体が温まる鍋物を食べようという感覚も習慣も、間近に炎を感じて熱いことにハッと、煙を臭いと感じ、足音や物音にドキッとするなどで危険を察知する等、本能にはたらきかけることができにくい環境が知らず知らずのうちに進行してしまう恐れがあるというのです。このままでは、豊かな人間性や感性を育む過程が、周囲からの五感による刺激や身体感覚からではなく、知識として系統的に脳が学ぶ学習として確立されてしまう心配があるとのことでした。

豊かな人間性を育む上で、本校生徒の今は、発達段階的にも成熟期前の最も大切な学びの時期であるとともに、最も多感で流動的な時期です。こうしたことから、今まで以上に多様な経験・体験活動の実践重視と積み重ね、そして本物による学びをより多く導入して参りたいと考えます。

校長 阿部 和彦



5月の主な行事予定

7	火	委員会	20	月	心電図(1年)
8	水	家庭訪問① 短縮③	21	火	陸上競技大会(熊谷スポーツ文化公園) ※お弁当 尿検査2次
9	木	家庭訪問② 短縮③	22	水	尿検査2次 結核検診(1年)
			23	木	陸上競技大会予備日※お弁当
10	金	内科検診 短縮③ 家庭訪問③	27	月	校内実習(5月31日まで) ※学校見学自由です。
14	火	歯科検診 短縮④ 家庭訪問④	28	火	保護者会 13:30~ 短縮⑤ 成人教育開講式 10:00~
15	水	体験実習(尚美学園大学)	29	水	学校評議員会 9:30~
16	木	体験実習(尚美学園大学)			
17	金	生徒総会			

